

オルケストラ シンフォニカ タケイ

故杉田村雄氏追悼

第 87 回

定期演奏会

昭和62年4月13日(月) P.M 6:30 開演

第一生命ホール



御招待

[当日御持参下さい]

プログラム

第 1 部

編曲・指揮：高野吉司

★挽歌 歎きの天使 —— 杉田村雄氏の霊に捧ぐ ——

作曲：マリオ・マチョッキ

○ ★序曲 センピオーネ

作曲：ドメニコ・デ・ジョヴァンニ

○ ★三つの舞曲

作曲：パウル・ラコム

ボレロ

アンダルーシ

ツォルツィコ

○ ★大いなる時

作曲：コンラッド・ヴェルキ

第 2 部 1986年度（第27回）武井賞授賞作品発表

★成田和子 作曲：クラシックギターのための「モナントゥ」

ギター独奏：福田進一

第 3 部

指揮：高野吉司

○ ★四里山の月

作曲：高野吉司

○ ★叙景的組曲 山の印象

作曲：鈴木静一

夜明け

高原の午後

麓を指して

★武井守成作品集

／ 古き子守歌

作品30〔アルバム「二葉より」〕

／ 木の実を躍る

作品70

／ 初秋の唄

作品26

PROGRAM

第 4 部 独 唱 奥 田 良 三〔賛助出演〕

編曲・指揮：高野吉司

★千曲川旅情のうた 作詩：島崎藤村 作曲：弘田竜太郎
—— 小諸なる古城のほとり ——

★初 恋 作詩：石川啄木 作曲：越谷達之助

★帰れソレントへ 作曲：B.G. クルティス

故 杉 田 村 雄 氏 ・ 追 悼 の 辞

氏は昭和34年よりオーケストラシンフォニカタケイを復興主宰され、長年の間理事長・指揮者として活躍されましたが、私共の願いも空しく昨年7月惜しくも逝去されました。

今更ながら惜別の念に耐えません。氏の音楽に対する情熱は青年時代より並々ならぬものがありましたが、武井守成氏との巡り合わせが更に情熱を燃え上がらせたものと思われます。

オーケストラシンフォニカタケイを主宰されてから以後は、全身全霊を打ち込んで他を顧みることなく、その迫力に私共はいたく感銘を受けました。この演奏会を氏に捧げるに当たり、改めて深く哀悼の意を表すると共に、氏の斯界に尽された大きな功績を喧伝し、氏の遺志を継承して格調の高い楽団の形成に努力致します。

願わくは天上より温かき御加護のあらんことを。

オーケストラシンフォニカタケイ 楽員一同

山本ミュージックコーナー

〒164 中野区東中野1-43-7 東中野駅東南口下車3分 TEL (363) 9893

取 扱 品 目

- ★手エマンドリン・ギター各種
 - ★各社マンドリン・ギター
 - ★マンドリン・ギター用弦及附属品
- Y.M.C. 音楽教室の各講師が選んだ楽器を責任を持っておすすめ致します。各団体の方々に割引販売致します。
どうぞ御用命下さいませ。

Y.M.C. 音楽教室

- マンドリン教室
平山英三郎 先生
高久倫子 先生
- ギター教室
平山英三郎 先生

曲 目 解 説

第 1 部

★挽歌 歎きの天使 作曲：マリオ・マチョッキ

作者はイタリーに生れたが、フランスに住みフランスに帰化した作家で、その作風は最もフランスの香りがつよく、1905年パリで創刊されたM.G.譜機関紙「エスト、ディアンティナ」は事実上彼の主幹する処で、その為かなり多くの作品を公にした多作家でありました。数多い作品の中で「組曲麦祭」とこの「歎きの天使」が彼の代表作とも言われております。昭和34年OST改組第60回定演より27年の長きにわたってOSTを育て上げられた杉田氏の追悼演奏会を開催するに当り本曲を演奏して氏のご冥福をお祈り致します。

★序曲 センビオーネ 作曲：ドメニコ・デ・ジョヴァンニ

作者はポーニア生れで1879年頃よりその才能が認められ、主に吹奏楽関係に関与して楽団の設立に尽力し、指揮者教授としてその指導に当ると共に多くの作曲をものし、パレルモ、ローマ、トリノ、フィレンツェ、ポーニアの作曲コンクールに応募し夫々受賞の榮に浴しております。マンドリン曲も亦1912年金賞受賞の「夜の印象」を初めとして「ト長調序楽（銀賞）」「ローマトリーノ」（入賞）等があり、本邦でも此等の作品は屢々愛奏されています。同作者の「静かな湖」は昭和50年第75回定演で演奏致しましたが、今回はセンビオーネトンネル開通祝賀の為の序曲を採り上げお聞き頂くことゝ致しました。

★三つの舞曲 作曲：パウル・ラコム

作者は（1838-1920年）フランスの作曲家でオペレッタ管弦楽等の作品があり、本曲はマンドリニストでミラノ・マンドリン合奏団の指揮者であったアルマンノ・モルラッキによりマンドリン合奏用に編曲されたものです。

- ・ボレロ…… スペインの代表的民族舞踏で特性的な律動を持っている
- ・アンダルス…… スペイン南部アンダルツヤ地方で行われている民族舞踏の総称
- ・ツォルツィコ…… ビレネー山脈の西方に住むバスク民族の舞曲

よくマンドリンを心得た編曲で3つの舞曲夫々が独特のリズムが強調されていて印象的でありメロディーも美しい。

★大いなる時 作曲：コンラッド・ヴェルキ op.18

1904年ベルリン生れの作者は、ドイツ・プレクトラム界の重鎮であり5つの序曲を始め多数の作品を発表し、特に従来の編成に加えて木管管楽器を使用してシンフォニックな味を深めると共に、マンドリン音楽を更に色彩豊かなものにしました。本曲は最も円熟期であった1933年の作品で、その構成の素晴らしさと低音の動きに乗った簡潔なメロディーは心を打つものがあります。更に一層の活躍を期待されておりましたが、惜しいことに1983年他界されました。尚本曲はOSTの編成に合わせて6管編成のものを2管編成に圧縮編曲致しました。

第 2 部 武井賞受賞作品

武井賞は日本のギター之父と言われてギター歴史に大きな功績を残された故 武井守成氏の名を冠した賞で優秀なギター作品に贈られるものであります。1986年度（第27回）武井賞は 成田和子作「クラシックギターの為のモナトッ」に贈られ、この授賞曲と記念演奏会は去る3月10日新宿文化センターで行われましたが慣例により本日こゝで演奏されます。

成田和子：1957年群馬県安中市に生れ現在パリ在住中、コンセルバトワールにて音楽理論作曲を修得、1983年クセナキス国際作曲コンクール及びマックス・ドウイツェ国際作曲コンクールに入賞

主な作品：1982年管弦楽曲「ストリームスペース」1984年管弦楽曲「クリスタル・トリプレドリック」等

福田進一：1955年生れ川崎市在住。1977-1985年パリ・エコールノルマル音楽院でA・ボンセに師事、第23回パリ国際ギターコンクール1位。1985年帰国して演奏活動中。

第 3 部

★四里山の月 作曲：高野吉司

四里山に月がのぼる 遠く仄かに 八太馬路の灯がゆれる
かすかに聞えてくるのは 大観園の胡弓の音か

中国山東省の青島と天津の中間に小さな都会済南があり、その南郊にスーリー（四里）山がある。済南日本総領事館在勤中私はよく好んでこの山麓を散歩した。既に遠い昔となったが、四里山上の丸い月と胡弓の音は、今尚、忘れることができない。

初演：昭和30.11.15 早稲田マンドリン楽部第75回定演

★組曲 山の印象 作曲：鈴木 静一 op.1

本曲は大正15年2月、作者が当時関与していた東京プレクトラムにより初演された処女作品でもあり、又代表作とも言われております。曲想は各楽章を通じて山で感じた感触を極めて素直に描写したスケッチ風なタッチで作られています。弾いて面白く聴いて楽しい作品です。因に作者は北海道出身、当初はマンドリニストを志ざされていた様ですが、その後作曲に専念して沢山の良きマンドリン合奏曲を残し、その偉業を惜しまれつゝ、昭和55年5月他界されました。尚作者は昭和41.5.15.拙宅（高野）にお出になり本曲を始め初期の作品の全部のスコアをお持ち帰りになり、若い頃の構想・和声が面白くないとのことで、其後改訂版として補正加筆されたものをお作りになりました。改訂されたものは素晴らしいものではありませんが、補正加筆されない当初作品には若い頃の質朴な感じが生のまゝ浮き彫りにされており、熱情的な直感が何か胸を打つものがあり、敢えて今回の演奏は改訂版によらず、当初のスコアにより演奏することゝ致しました。

★武井守成 作品集

武井守成氏は宮内省楽部長後に式部長官の要職にありながら全生涯を作曲に専念され、日本のマンドリン・ギター音楽発展の推進者として大きな足跡を残されました。一方大正4年楽団を創設シンフォニア・マンドリン・オーケストラと称し、後にオーケストラ・シンフォニカ・タケイと改称、戦時中は武井楽団の名で演奏会を開き、昭和18年第48回定演を最後とし終戦を迎えました。昭和24年11月復興第1回の演奏会を再開され、これからと云う時に同年12月14日急逝されました。享年59才。作品はギター曲58曲、合奏曲43曲他となっております。因にop.1は大正8年29才の作、ギター曲「幼き時の思い出」。最後のop.114は昭和24年作ギター曲「子供の為のアルバム」

古き子守歌……昭和4年作op.30。「アルバムの二葉」の№1で№2の「ミスエット」と組になっています。昨年8月31日故杉田村雄氏の49日法要の日、霊前にて演奏されました。

木の実を躍る…昭和17年作op.70.作者の言葉「かたい小さな実が木から落ちてはね反り転がる状の図案化、描写ではない」

初秋の唄……昭和2年作op.26.初期の作品は殆んどが合奏曲で「朝鮮の印象」など傑作が数多くありますが、この曲は大正14年作op.14「踊る小花」と共に全国的に最も頻りに演奏される代表作の一つです。

作者の言葉「純日本風旋律に初秋の憂愁を画き、稍欧風に変えて曇りなき晴空への喜びを唄う」

故杉田氏が「次の定演に演奏したい」との御希望のあった事を聞き及び、本日それを実現して、氏の霊をお慰めできたら幸です。

第4部 奥田良三・独唱

昭和2年日本青年館での独唱でデビューされたテノール歌手 奥田良三氏は84才の今日、尚矍鑠として御活躍中であることは皆様もよく御承知のことと存じます。奥田氏と故杉田氏は共に明治36年生れの同年であり、日伊音楽協会では会長・理事長、昭和音楽大学で学長・監事の間柄で常々親しく御交際されておられました。この演奏会を開催するに当り奥田氏は故杉田氏追悼の為、進んで出演を希望され、曲目も昭和55年定演で故杉田氏指揮のもとに歌われた3曲をそのまま再唱されることに致しました。

千曲川旅情のうた { 小諸なる古城のほとりに 雲白く遊子悲しむ 緑なすはこべは萌えず 若草もしくによしなし
しらがねの衾の岡辺 日に溶けて淡雪流る

作詩：島崎藤村 { あたゝかき光はあれど 野に満つる香も知らず 浅くのみ春は霞みて 麦の色わづかに青し
作曲：弘田竜太郎 { 旅人の群れはいくつか 畠中の道を急ぎぬ

{ 暮れゆけば浅間も見えず 歌哀し佐久の草笛 千曲川いざよふ波の 岸近き宿にのぼりつ
濁り酒濁れる飲みて 草枕しばし慰む

初 恋 { すなやまの すなにはらばい はつこいの
いたみをとろう おもいづる日

石川啄木詩集「一握の砂」より
作曲：越谷達之助

帰れソレントへ { 美はしの海よ なつかしの友よ 夢にも浮ぶは 君がおもかけ
香りもゆかしき そのに我は立ち 去り行きし友を 胸にぞえがく
作曲： G.B.クルティス { あゝなつかし友 我は唯一人 おもての丘に 君を待つよ
帰りに来よ 我を忘るな 友よ 帰れ 帰れよ

〔文責：高野・今津〕

指	揮	:	高野吉司			
第一マンドリン	:	肥沼成明	新居裕久	坂本尚子		
		本間輝樹	秋元興光	幸田禎治		
第二マンドリン	:	宮崎泰行	市毛利喜夫	浅井キク		
		岡田茂	長利一夫	村上一二郎		
マンドラ	:	岩片順子	石井栄一	佐藤一徳		
		田中倭文子	宮本皓永			
ギター	:	今津章	宮本紀子	嘉瀬敏	武藤晋司	田巻理
		山本雅三	城所敏夫	沢田行雄	清水英之	
リ्यूート	:	伴峰夫	岩織淳子			
マンドチェロ	:	鈴木功	平山英三郎			
マンドローネ	:	高田三九三	家城孝治			
コントラバス	:	石黒不二夫	櫻井正樹			
フルート	:	宇野浩二				
クラリネット	:	大塚精治				
ピアノ	:	福田りさ				
打楽器	:	松原竜一				

オルケストラ シンフォニカ タケイ事務所
 〒241 横浜市旭区中尾町 82-1
 ☎045-363-1046 代表幹事 今津章(宅)

〔入会御希望の方は上記迄ご連絡下さい〕